

ポストコロナ時代の地方移住・就労 ～国土計画からまちづくりまで～

日時：令和3年7月10日（土）14時00分～16時30分（多少の延長あり）

場所：オンライン

申し込み：学会東北支部ウェブサイト（<http://tohokucp.jp/>）より
お申し込みください

主旨

戦後、東京への一極集中の動きが一貫して続いてきた。その流れに終止符を打つ可能性を生じさせたのが、インターネットの普及・高速化をはじめとした技術の進展である。インターネットを活用したりリモートワークは場所を選ばないため、地方都市にも「チャンス」が生まれることになる。そして今回のコロナ禍に伴う在宅勤務の推奨は、このような動きを一気に加速させた。

本シンポジウムにおいては、このような流れの中における地方移住・就労に関する現在の状況を概括的に把握するとともに、東北各地で行われている先進的な受け入れの取り組み事例の効果と課題を学ぶことを通じて、今後の地方への人口流入の可能性とあるべき姿を、国土計画レベルからまちづくりレベルまで広く展望することを目的とする。

ご講演

「コロナ禍における地方移住の現状」

國學院大學准教授

高和雄 様

「山形庄内をモデルに 未来にときめく社会を創る」

ヤマガタデザイン街づくり推進室 長岡太郎 様

「テレワークを越えて地域の翻訳者になる」

三戸町 sannohe yell 代表

五十嵐淳 様

「コロナ禍の地方への移動」

きら星株式会社 代表取締役

伊藤綾 様

+ パネルディスカッション

コーディネーター：小地沢将之（宮城大学准教授）

